

## 岩手大学農学部教員公募

### 公募要領

#### 1. 対象者

- (1) 所属・職名：応用生物化学課程 教授 1名
- (2) 専門分野：応用生物化学  
食品原料の品質特性の価値，栄養面・嗜好面を考慮しながら，食品を「圃場から食卓まで」の広い視野を持って研究を行い，その成果を地域貢献や国際貢献を通じて，社会に還元するための教育研究を行う人材を求める。特に植物性食品の成分を化学的に研究できる人材が望ましい。
- (3) 担当授業科目：食品学，食品保蔵学，食品衛生学，基礎分析化学（分担），食品化学実験，全学共通教育科目，専門基礎科目，卒業研究（以上学部科目），食品衛生学特論，食品機能学特論（分担），応用生物化学特別研究（以上大学院修士課程科目）
- (4) 資格条件：ア．博士（又は Ph. D.）の学位を有し，上記の専門分野において優れた業績を有する者  
イ．上記の専門分野の教育研究に関する十分な能力と意欲を有し，課程及び学部  
の運営に積極的に取り組める者
- (5) 任用予定：平成24年10月1日以降のできるだけ早い時期

#### 2. 提出書類

- (1) 履歴書（写真添付）：1通
- (2) 研究業績一覧：下記の分類に従って，A4判横書きに年代順に記載する。
  - A. 著書・訳書－著者等（編，単著，共著，分担），発行年，書名（分担項目），出版社，通頁
  - B. 学位論文－著者（発行年），題目，大学名
  - C. 総説・論説－著者（単著，共著，分担），発行年，題目，誌名，巻（号），通頁
  - D. 原著論文－全著者，年，題目，誌名，巻（号），通頁  
(a) 学術雑誌，(b) 紀要，(c) プロシーディングスに分けて記載する。  
著者名にアンダーラインを付し，コレスポンディングオーサーあるいは筆頭著者とイコールコントリビューションの場合は二重のアンダーラインを付ける。但し，論文にその記載が有る場合に限る。
  - E. その他（報告書・事業報告書など）
  - F. 特許・設計など
  - G. 国際学会発表（最近5ヶ年）注－1） マージンは左右上下約3cmに設定し，1行35－40字で40行（日本文の場合，フォントサイズは10.5－12程度）にして下さい。  
注－2） 例えば，総説・論説が無い場合は，C. 原著論文のように繰り上げて下さい。
- (3) 主要論文の別刷り：5編以内
- (4) 現在までの教育研究内容の概要（地域貢献の内容についても合わせて記載して下さい）：A4用紙2枚程度
- (5) 着任後の教育研究に対する抱負：A4用紙2枚程度
- (6) 特筆すべき教育・研究業績（受賞や特許など），競争的資金獲得状況，社会活動や学会活動など
- (7) 本人について問い合わせができる研究者の氏名と連絡先：2名

3. 応募期日：平成24年7月31日（火）まで。（当方から連絡する場合の宛先，電話番号及びメールアドレスを明記のこと）

4. 選考方法：一次：書類選考，二次：プレゼンテーション及び面接（但し，旅費等の経費は自己負担とする。）

5. 提出方法：上記の提出書類（1）～（7）を合わせて1つのPDFファイルに変換し，下記のメールアドレスにお送り下さい。

6. 書類送り先：岩手大学農学部応用生物化学課程 河合成直（e-mail: skawai@iwate-u.ac.jp）宛尚，メールのタイトルは「教員応募書類（応用生物化学）」と記載して下さい。

[付記]

・岩手大学は男女共同参画を推進しています。業績及び資格等に係わる評価が同等と認められる場合には、女性を優先的に採用します。両住まい手当制度や子育て・介護中の研究者に対する支援策等についてはこちら（[www.iwate-u.ac.jp/gender/](http://www.iwate-u.ac.jp/gender/)）をご覧ください。

・応用生物化学課程の状況（平成24年6月25日現在） 現員：教授5名，准教授4名，助教1名。（平成24年7月1日に准教授1名赴任予定）

## 「研究業績」の作成について（2007. 4）

農学部教員人事委員会

研究業績は、A4判の用紙に A. 著書・訳書、B. 学位論文、C. 総説・論説、D. 原著論文 (a) 学術雑誌\*<sup>1</sup>、(b) 紀要\*<sup>2</sup>、(c) プロシーディングス、E. その他\*<sup>3</sup>、F. 報告書・事業報告書等\*<sup>4</sup>、G. 特許・設計等、H. 国際学会発表\*<sup>5</sup>、I. 国内学会発表\*<sup>5</sup>の順に、下記の例を参考にして作成してください。例えば総説・論説がない場合は、C. 原著論文のように繰り上げてください。マージンは左右上下約3cmに設定し、1行35～40字で40行程度（日本文の場合フォントのサイズは10.5～12程度）にしてください。

- \*1：学会誌、国際誌等を年代順に記載する。
- \*2：試験場報告、研究所報告等を含む。
- \*3：商業雑誌、資料等に記載する。
- \*4：調査報告書、科学研究費報告書、事業報告書等に記載する。
- \*5：最近5ヵ年について記載する。（教授選考の場合、I. 国内学会発表は不要）
- \*6：著者名にアンダーラインを付け、コレスポンディングオーサーあるいは筆頭著者とイコールコントリビューションの場合は二重のアンダーラインを付ける。ただし論文にその記載がある場合に限る。
- \*7：英文で著者名を記載する場合は、下記のようにする。
  1. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)
- \*8：学名にはアンダーラインをつけるか、またはイタリックで記載する。
- \*9：論文番号は全角、英数字は半角にする。また、巻数はボールド（太字）とする。
- \*10：Journal は略記する。
- \*11：発行又は発表予定として記載可能なのは in press か accepted のみとする。

〈記載例〉

研 究 業 績 (著書・学術論文等)

### A. 著書・訳書

1. 岩手一郎 (単著) (1990)  
農学について. ○○出版社, 東京, 100p.
2. 岩手一郎 (分担執筆) (1991)  
北上山地における畜産業, 「岩手の農業」(大学太郎, 学部一郎編), △△堂, 盛岡, pp. 10-20.
3. 岩手一郎 (分担翻訳) (1992)

トウモロコシ, 「アメリカの農業」 (A. B. Carter 著, 大学太郎監訳), ◇◇社, 東京, pp. 20-30.

4. Iwate, I. and Morioka, J. (分担執筆) (1993)  
Agriculture in Japan, "Agricultural Sciences" (Eds.: D. E. F. Green and H. I. James), Bio Press, London, pp. 20-30.

#### B. 学位論文

1. 岩手一郎 (1980)  
XYZに関する研究. [◇◇学修士または修士 (◇◇学) ○○大学]
2. 岩手一郎 (1983)  
ABCに関する研究. [◇◇学博士または博士 (◇◇学) ○○大学]

#### C. 総説・論説

1. 岩手一郎 (1994)  
岩手における野生動物の分布. 岩手の自然 No.3 : 1-5.
2. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1995)  
岩手山の植物分布. 岩手植物誌 15 : 215-220.

#### D. 原著論文

##### (a) 学術雑誌

1. 岩手一郎 (1985)  
岩手の野生動物に関する研究. 日動学誌 5 : 15-20.
2. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)  
Distribution of wild animals in Iwate Prefecture. Jpn. J. Anim. Sci. 20 : 100-105.
3. Iwate, I. (1990)  
Calcium metabolism in laying Japanese quail (*Coturnix coturnix japonica*). Jpn. Avian Physiol. 25 : 15-20.

##### (b) 紀要

1. 岩手一郎 (1985)  
トウホクヤマネズミの生態について. 岩手大農報 17 : 30-40.

##### (c) プロシーディングス

1. Iwate, I., Morioka, J. and Akita, N. (1995)  
Mode of life of Japanese macaques in northern Japan. Proc. 5th Int. Cong. of Wild Animals, Berlin, pp. 101-102.

E. その他

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1990)

北上山系におけるニホンカモシカの生態調査. 野生動物 No.125 : pp. 35-45.

F. 報告書・事業報告書等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)

イヌワシのPCB汚染. 自然動物調査報告 (△△県), pp. 10-11.

G. 特許・設計等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)

イヌワシ捕獲装置 特許第 1234567 号

H. 国際学会発表 (最近5か年)

1. Morioka, J. and Iwate, I. (1996)

Ecological study of wild animals in Japan. 5th Int. Anim. Ecol., New York.

I. 国内学会発表 (最近5か年)

1. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1997)

岩手の野生動物. 第100回日本野生動物学会講演要旨 : 25-26.